

# 知恵の樹

No. 222 2018.3.27

町田の図書館活動をすすめる会  
<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典  
[tejitaka@f8.dion.ne.jp](mailto:tejitaka@f8.dion.ne.jp)

## 全会一致で採択！「さるびあ図書館の存続を求める請願」

しかし、行政との闘いは、これからが正念場です

手嶋 孝典

### 7,730 筆の請願提出

「町田市立さるびあ図書館の存続を求める請願」は、3月13日(火)、市議会事務局に7,532筆の署名を提出しましたが、その後198筆の追加があり、最終的には7,730筆の請願署名が集まりました。

署名活動は、さるびあ図書館周辺及び近隣の町内会・自治会を始め、町田第一小学校の読み聞かせボランティアの方たちの熱心な取り組みが中心となりました。さるびあ図書館がいかに地域に大切にされているかがよく理解できました。

また、多摩地域の市町村、23区はもとより、北は北海道から南は沖縄まで、全国各地から多くの署名が届けられました。図書館をこよなく愛する個人・団体が加入している図書館友の会全国連絡会(図書連)を始め、日本図書館協会、図書館問題研究会、近隣の図書館関係団体・個人の連帯の力を実感した次第です。

皆様から寄せられた力強いご支援に感謝申し上げます。

### 文教社会常任委員会で「採択すべきもの」と決定

3月20日(火)に開催された市議会の文教社会常任委員会で請願が審議され、その冒頭に、町田市中町中央町内会会長の新井邦夫さん、町田第一小学校読み聞かせボランティアの並河節子さんが意見陳述を行いました。お二人とも、実に堂々とした意見陳述でした。その後質疑があり、採決の結果、賛成多数(一人の委員は挙手せず)で、採択すべきものと決まりました。

### 本会議では全会一致で採択

3月23日(金)の市議会本会議では、文教社会常任委員長の報告が行われ、表決の結果、全会一致(委員会で挙手しなかった議員も賛成)で採択されました。

### 存続を求める請願採択＝存続の決定ではない

町田市の行政は、議会の動向を無視して、着々と廃止に向けた準備を進めています。昨年の9月議会で請願が採択された鶴川図書館、12月議会で採択された市民文学館も同様ですが、「存続を求める請願」が採択されたからといって、存続が決まるという訳ではないのです。

文教社会常任委員会の審議の中では、さるびあ図書館の複合化の話が出ていましたが、それは全くの誤解です。再編計画(素案)の中で、複合化のことが出ているので、それと勘違いしているに過ぎません。さるびあ図書館は鶴川図書館と共に「集約」(つまり廃止)の対象であり、「複合化する」のは、金森図書館、木曾山崎図書館だけが対象です。

### 行政との闘いはこれからが正念場

図書館の集約(廃止)は、市民にとって到底許容できるものではありません。そもそも、「新5カ年計画」で6館から8館にしたばかりなのに、「5カ年計画17-21」では、逆に2館減らす計画になっており、計画の整合性・一貫性が問われると思います。

図書館については、2018年度に施設再編案の検討・決定を行うことになっており、何としても「集約」(廃止)を阻止しなければなりません。(代表)

# 第10回 町田市公共施設再編計画策定検討委員会を傍聴して

—いよいよ市の再編計画の素案が出て、意見募集が始まりました！

鈴木 真佐世

2月27日(火)に標記委員会が市庁舎の市民協働おうえんルームで開催されました。今までの委員会は、狭い会議室で、傍聴者が5名入ると一杯の会場でしたが、今回は広々として多くの傍聴者が入れる会場でした。でも残念ながら傍聴はいつも同様の4人だけでした。

## 1. 前回の振り返りと報告事項(事務局より)

報告①合意形成の取り組みとして“ぶらっと”第1号(3月1日に配布予定)について説明。会議当初は、公表前ということで委員にのみ配布されたが、討議内容がわからないということで、会議の途中で傍聴者にも配布(終了後回収)。

②「まちテレ」について説明(3/1～放映、「公共施設の未来を考える」。公共施設を利用していない人、関心のない人にも関心を持ってもらえるような作りにした等)後上映。この動画の中で若者も登場して「いろいろ知らなくてはいけないと思った」などと発言。

## 2. 意見募集について

意見募集のための資料「再編計画素案」の修正版を見ながら、事務局より第9回委員会で配布のものからどこを変えたかを説明。大きな変更では、前回委員会で出た「なぜ再編が必要なのか」という説明を盛り込むべき」という委員の意見を入れて財政的な状況説明を加筆。(資料PDFは町田市HPの「2017年度 町田市公共施設再編計画策定検討委員会の開催経過」に)

この資料は、意見募集時、説明会時に市民に配布。この他に意見募集時期には、もう少し詳しい閲覧用参考資料も用意し、市民センターなどに閲覧用に置き、ホームページにも掲載の予定。⇒「町田市公共施設再編計画」(素案)についてご意見募集を実施します！(2018年3月20日～4月20日)

<http://www.city.machida.tokyo.jp/shisei/gvousei/keiei/kokoyohisetsumanagement/arikatagoiken.html>

## 3. 質疑・議論(1. と2. について)

・公共施設の問題は町田市だけでなく全国的な問

題。財政、人口、老朽化の3つを理解させる必要がある。

・全市的な施設は総論で話が進むが、地域の身近な施設については、総論賛成各論反対になりやすい。

・「ご意見記入用紙」については、記入フォームとして最初に、何々の施設についてと個別の施設を記入して意見を書くようになっているが、この再編問題に対する理解についての質問も入れたほうがいい。

## 4. 説明会について

・昼間と夜間も織り交ぜて、各地で合わせて、計10回。説明1時間、質疑応答1時間とする。

・説明会のお知らせについて:ポスターを市民センター等に貼る。(委員意見:町田の中心地にある生涯学習センターが説明会場になっていないが、多くの人に参加してもらうために入れたほうがいい。)

・今後、施設ごとの説明会も行う予定。

## 5. 来年度の予定

3月20日～4月20日 意見募集

3月22日～3月27日 説明会実施

5月上旬第11回委員会 意見募集結果まとめ

6月上旬第12回委員会 計画最終確認

6月下旬 計画策定

(委員会は、当初より3か月延長して、6月まで)

委員長から:この委員会は諮問機関ではないので委員会から市長に改めて提言を行いたい。これで終わりではなく、これから始まると思うので、次につながるものとしてこの委員会を終わらせたい。

.....

報告は以上で、ここからは私の感想・意見です。毎回傍聴していて感じるのは、この計画は、委員会で公共施設をどうするのかを一から考えるのではなく、あくまで市の「5ヵ年計画17-21」の中の「改革項目3-3市有財産の戦略的活用(公共施設における行政サービス改革)」に書かれている施設の削減及び管理運営手法の決定を具体的に進めるための段

取りでしかないということです。市が出した案・計画に委員が意見を言うと、表し方や進め方が少し修正されるだけで根本的な方向は何も変わらないように感じました。

5ヵ年計画をストレートに出すと市民に受け入れられないので、「再編後のイメージ例」の部分で、再編すると素敵になるようなイメージを描いているのは、ごまかしではないでしょうか。図書館の部分について言えば、5ヵ年計画では、「貸出冊数は減少傾向にあることなどから、効率的・効果的な図書館サービスの提供を検討するとともに、8箇所ある図書館の再編を推進」とあります。再編計画素案では、「再編後のイメージ例」として「他の施設に複合化することで、より多くの人々が図書館に触れる機会を創出。他の機能と連携することで、市民等の活力を活かした、図書館に関連した新たなサービスが展開される」と書いてあるのを読んだ人は、なにかいい方向になるように受け取るのではないのでしょうか。でも、スケジュールには、まずは、位置が接近している図書館(鶴川駅前図書館と鶴川図書館、中央図書館とさるびあ図書館)の集約検討決定。その他複合施設でない地域館は周辺学校の大規模改修・建て替えの時期に複合化。効率的・効果的なサービスの提供(指定管理などの導入)についても2018年度に検討・決定を行うと書かれています。このような大きな問題

をあと数か月で決定するというのはあまりに乱暴です。1月に出された素案(の案)には、「市民アンケートの結果や市民からの意見を踏まえ、見直し案(施設再編案とその案の管理運営体制)をまとめ、図書館協議会からも意見を聞いたのち、最終案を教育委員会で決定する」となっていました。今回出された素案には、「見直し案(施設再編案)をまとめ決定する。」と書いてあり、大きく変わりました。図書館協議会が教育委員会から正式に意見を求められないことになるのでしょうか。

今回の素案から管理運営体制のことを外し、図書館協議会から意見を聞くことも外した意図は何なのか、市側に尋ねなくてはと考えています。一方、文学館の計画には、**2018**年に存廃の検討・決定と共に管理運営手法の方針検討・決定も行われることが削られることなく、載っています。このことから文学館は、存続するが、指定管理に移行される可能性が大きいように見えました。以上、委員会では全然話し合われなかった部分ですが、前回と今回の素案の違いに、庁内で検討されていることが反映されているのかと思った次第です。個別施設ごとの説明会も今後行うそうなので、注視していきたいと思います。次回策定検討委員会は、5月8日(火)午後2時～、市庁舎市民協働おうえんルームにて。(会員)

∞∞

ら貧しさや逆境に耐えつつ、数年学校教育を受けました。

優等生とは言い難い子ども時代をおくりながらも、持ち前の頭の良さや身に付けた処世術で困難を乗り越えていきます。と、そこまでは自伝『ブラック・ボーイ』(岩波文庫・〈上〉〈下〉)の中で語られています。

一人で本が読めるようになって読書や社会に強い興味を抱くようになって彼には本を買う余裕などありません。読めるものはゴミ箱の古新聞さえ読みましたが、町の図書館は、公園や運動場と同じように黒人には利用できませんでした。

17歳の時、仕事を求めて単身テネシー州メンフィスに移った彼は、眼鏡商の下働きの職を得ました。いつかシカゴに移り新しい生活を始める第一歩にしようと考えていたのでした。職場で彼に理解を示す白人のフォーク氏の計らいで使いをたのまれたよう

## こんな本みつけた！ (第7回)

### 『ぼくの図書館カード』

多田 美恵子



『ぼくの図書館カード』(ウィリアム・ミラー/文、グレゴリー・クリスティ/絵、斉藤規/訳、新日本出版社、2010年)

この絵本のモデルとなったのは20世紀黒人文学の先駆者といわれるリチャード・ライトです。ライトは1908年アメリカ・ミシシッピ州に農場で働く両親のもとに生まれました。祖父の代までほとんどの黒人は奴隷でした。当然のように差別は激しく白人からの理不尽な迫害は想像を絶するものがある時代です。5歳の頃に父親は愛人をつくり家出、ライトは母、母方の祖母(白人)から簡単な読み書きを教わりなが



に装い、フォーク氏の図書館カードで次々に、ディケンズ、トルストイ、ステューブン・クレインなどを読みふけり文学の世界に傾倒していきました。

『ぼくの図書館カード』の中で彼は自身の図書館カードは持てませんでしたが、ここで多くの書物に

触発され、シカゴへと旅立っていくところで終わっています。のちに『アメリカの息子』（ハヤカワ書房）が各国でベストセラーになるなど、多くの著作を残しています。（会員）

\* 町田市立図書館は3冊所蔵しています。

## 平成 29 年度東京都多摩地域公立図書館大会参加報告 ③

第2分科会(2月6日、午後2時～4時)

### 「多摩地域の郷土レファレンスとレファレンス協同データベース」

講師:寺尾 隆氏(大学図書館支援機構 研修委員)

平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会第2分科会に参加させて頂きました。講師は、国立国会図書館でレファレンス協同データベース事業の企画協力員を8年務められた寺尾隆先生。優しい笑顔と穏やかな口調で、レファレンス協同データベース(以下、「レファ協」と略記)について知識皆無の人でも楽しめるよう語って下さいました。

「レファ協」は、国立国会図書館が全国の図書館と協同して構築している、調べものためのデータベースです。参加館は767館(2018年2月現在)。館種は、公共図書館から大学図書館、学校図書館、専門図書館まで多岐にわたります。これらの図書館で日々行われているレファレンスサービスの記録を集めてデータベース化したものが「レファ協」です。

データベースは、4種類あります。まず1つめは、参加館で行われた質問回答サービスの記録としての「レファレンス事例」。2つめは、特定のテーマに関する「調べ方マニュアル」。3つめは、参加館が所蔵する貴重なコレクション情報とリンクされる「特別コレクション」。そして4つめは、この事業に参加している図書館の情報を収めた「参加館プロフィール」です。

これら全てのデータを合わせると、20万件を超えます。ただ、1つ1つのデータには公開レベルが設定されているため、全てを閲覧できるわけではありません。インターネットを通じて「一般公開」されているのは、全体の54%。残る46%は、「参加館公開」と「自館(データ登録館)のみ参照」です。全てを閲覧できないといっても、10万件以上のデータを参照できるわけです。

さて、4種類のデータベースの中で最も登録件数が

多いのが、全体の94%を占める「レファレンス事例」です。ここには、クイックレファレンス的なものから、記録の処々に苦勞の跡が垣間見えるものまで、様々な事例が登録されており、調べものに役立つのは勿論のこと、読み物として楽しむこともできます。

例えば、寺尾先生が「共感を生む事例」として引用されたものに、愛知県蒲郡市立図書館が登録した「魔法がつかえるようになりたい」という事例があります。質問者は6歳の男の子。「魔法がつかえるようになりたい」と言ってきた男の子に、司書がどのように対応し、どのような資料を提供したかが丁寧に記載されていますが、楽しいのは備考欄に書き添えられた後日談。男の子と司書のやりとりが目に浮かび、思わず笑みがこぼれます。

[http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref\\_view&id=1000188753](http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000188753)

国立国会図書館が運営するデータベースというと、どうしても堅苦しいイメージが付いてまわりますが、実はこのように人間味あふれる楽しい事例も推奨されているのです。

ここまでは一般的な事例を引用しながらの「レファ協」についての説明でしたが、後半は郷土レファレンス事例を引用しながら、そこにリンクされている数々の有用なデータベースを紹介して頂きました。例えば、「中世の荘園の地名(〇〇庄)を検索したい」という事例を登録したのは千葉県立中央図書館ですが、「日本荘園データベース」と「荘園関係文献目録データベース」にリンクが貼ってあり、荘園について詳細な情報が得られるようになっています。[http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref\\_view&id=1000074625](http://crd.ndl.go.jp/reference/detail?page=ref_view&id=1000074625)

町田市立図書館の場合、レファレンス資料の豊富な中央図書館と違って、地域館は蔵書が貧弱なため、このようにしっかりしたデータベースがあると本当に助かります。この他にも、それまで知らなかったことが悔やまれるようなデータベースを幾つも紹介して頂き、改めて「レファ協」の素晴らしさを実感した次第です。

最後に、「レファ協における多摩地域の郷土レファレンス事例」として 15 事例挙げて説明して頂きましたが、なぜかそのうちの9事例が町田市立図書館で登録したものだったことは、ちょっと嬉しいことでした。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「レファ協」は、参加館数・データ登録数ともに増加の一途を辿り、「情報の宝庫」として確実に進化し続けています。片や、町田の図書館は、容赦なく予算を削られ続け、資料購入費はこの5年間で半以下に激減しています。当然、その影響はレファレンスサービスにも及ぶことでしょう。そんな苦境にあつて、今後図書館と利用者を支えてくれるのは、「レファ協」のような優秀なデータベースなのかもしれません。

野町 美和(会員)

## 平成 29 年度東京都多摩地域公立図書館大会参加報告 ④

第3分科会(2月7日、午前10時～正午)

### 「読みたい心に火をつけろ！～学校図書館と公共図書館がつながるために～」

講師:木下 通子氏(埼玉県立春日部女子高等学校主任司書)

講師の木下さんは、昨年『読みたい心に火をつけろ！』(岩波ジュニア新書)を出版されました。本を読み、仕事で学校支援を担当しているので、興味を持って参加しました。

#### 1. 学校図書館の役割と学校司書の仕事

最初に、高校の HP 上で学校の PR の一つとして、図書委員たちが作成した春日部女子高校図書館の案内の動画を見ました。利用している生徒へのインタビューを交えたもので、明るい雰囲気のあるものでした。

埼玉県立高校の学校司書の配置や採用状況についての説明がありました。県立高校の学校司書は埼玉県立図書館職員として採用されています。一時期、採用がないときがありましたが、現在は要望して採用されるようになり、配置されているとのこと。これにあわせて、東京都立高校の現状として学校司書が業務委託になっていることに触れ、心配されていました。

埼玉県の高校図書館司書が選んだ「イチオシ本」の活動報告がありました。学校司書が高校生に読んでほしい本を投票で選ぶもの。2010年に始めた当時、あまり関心はもたれなかったようですが、最近は出版社や書店や作家に認知されてきており、作家・翻訳者を招いた講演、作家から10代の子どもたちへのメッセージを掲載したパンフレットの作成も行われています。

2017年の「イチオシ本」は、発表前で教えてもらえませんでした(2月16日に発表、1位は辻村深月の『かが

みの孤城』)。

#### 2. 子どもの読む力、「生きる力」を育む場として

本は生きる力になるということについて、学校での生徒たちとのやりとりやご自身の子育てでの体験を中心に話されました。

最後に、紹介したい本として5冊を話されました。『誰もボクを見ていない』山寺香(ポプラ社)、『死ぬほど読書』丹羽宇一郎(幻冬舎新書)、『孤独論』田中慎弥(徳間書店)、『95歳まで生きるのは幸せですか?』瀬戸内寂聴・池上彰、(PHP新書)『女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと』西原理恵子(KADOKAWA)。

(感想)

○講師のパワーを感じました。日ごろ、生徒たちとのやりとりが垣間見える話で、学校司書がいることは大事だと再認識しました。ただ、公共図書館との関わり方の話をもっと聞ければよかったですと思いました。

○今回、講演を拝聴した中で特に印象的だったのは、学校司書が採用されなかった時期に、単に司書がないのは困るというアピールではなく、司書がいることで図書館はこんな楽しくなるというポジティブなアピールを市民など外に向けて行ったのが、埼玉県高校図書館フェスティバル(のちの「イチオシ本」)だったそうで、その活動が功を奏して採用再開にこぎつけた話や、高校間で ISBN の共通書誌を

作成することで、必要な資料のやり取りを可能とし、限られた予算の中で資料を有効利用している話は興味深かったです。

学校図書館では子供たちを知り、信頼を得ながら本を薦め、読書に興味を持たせることが大切で、そのためには職員として長く勤務することが必要なこともよくわかりました。小・中学校については、非常勤で複数の担当校をかけもちなど、本来の司書業務を行うことが難しく、改善が必要という点は、他の自治体とも共通の課題のようでした。学校図書館と公共図書館をどうつなげるかまでは話が及びませんが、学校図書館の現状・課題がよくわかる講演でした。  
石井一郎・兼田裕紀子(会員)

## 三多摩図書館研究所と「すすめる会」の共催学習会を開催！

### 一人一人が主権者として生きる —その骨格としての公共施設—

★講師：池上洋通さん(自治体問題研究所理事  
事・多摩住民自治研究所研究室長)

★日時：4月7日(土)午後2時～4時30分

★会場：町田市立中央図書館ホール(6F)

★問合せメール：[santoken@jcom.zaq.ne.jp](mailto:santoken@jcom.zaq.ne.jp)

三多摩図書館研究所

<http://www.santoken.org/>

★資料代：300円

## 第17期図書館協議会 第5回定例会報告(報告者 清水 陽子)

2018年2月27日(火)午前9:30～11:10 中央図書館・中集会室 傍聴者 なし

### 【報告事項】

#### 《館長報告》

1. 教育委員会 第11回 2月2日(金)

図書館所管の内容なし

2. その他

(1)2018年度町田市立図書館嘱託員選考

1/22 一次選考 2/15 二次選考4名合格

Q:合格者は図書館業務の経験のある方か⇒

公共図書館または大学図書館経験者

(2)図書館協議会地域館視察

1/23 午後 市内西部(木曾中学校含む)

2/20 午後 市内東部(三輪小学校含む)

委員感想:

- ・ふだん事務室は入れないので勉強になった。
- ・学校側でも学校図書館はあまり日の目を見ないのでこれを機に良い風が入った。
- ・おはなし会のスペースは館により差がある。
- ・学校図書館を普段見る機会がないので、勉強になった。
- ・金森図書館は図書館まつりの掲示が始まっています積極的な姿勢がうかがわれた。
- ・各館の環境が違い働く人も大変。資料費が少ないことから、さるびあと金森の蔵書を入れ替えて目先を変える工夫がされていた。
- ・学校図書館はローカルルールで運営されている

学校があり、学校間の連携などは取りにくい状況が伺えた。

(3)中央図書館蔵書点検 1/29～2/5 休館して実施。エレベータ工事(1/29～2/23)に合わせて。不明資料約400冊(前回2015年11月実施)。

Q:BDSが付いている状況で現在の不明本はどのような本を言うのか⇒BDSがあっても感度の問題で警報が鳴らない場合もある。

Q:蔵書点検についての広報はあったのか⇒実施と結果についてはお知らせする。

Q:不明本の分析や傾向については⇒まだ分析はしていないが、傾向などについては協議会で報告する。

Q:警報が鳴ったら必ず声掛けができていないのか⇒ゲートに職員が張り付いているのではないのでチェックしきれない場合もある。

(4)堺市民センター予約資料受け渡し場所開設  
1/30～3/30 9月から休館中 4/1から開館

(5)平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会  
2/6～8 都立多摩図書館 初日160人  
2日目247人 3日目150人 計557人

委員:2日目「読みたい心に火を付けろ」(木下通子氏)は現場の人たちがたくさん聞きに来ていた。午後の「認知症に優しい図書館」(呑海沙織氏)は誰にでも優しい図書館という主張に共感。やれる

ところからやるのが大切。

(6) 団体登録利用者懇談会 2/8 中央図書館にて開催。29 団体参加

Q: 懇談会の内容は⇒事業説明とご意見ご要望をいただいた。①利用に当たっての貸し出しカードの更新、会議室の借り方の簡略化 ②団体の活動についてのポスターや活動の紹介を図書館でできないか ③学校支援の簡易化。(時間の短縮化)などについての要望があったが、人員と資料数の関係で即答はできなかった。

Q: 前もってアンケートなどして要望等を調査し、ある程度図書館が検討してから会に臨むようにしないと、内容についての詰めた話し合いができないのではないかと。⇒前回の懇談会の時にはそのような要望はなかったが、以前には出ていたので、検討したい。

提案: 中央で開催するときはバックヤードの見学なども取り入れると図書館に対しての理解も深まるのでは。

(7) 第 12 回町田市生涯学習審議会 2/21

今後の生涯学習施策の進め方の答申の最後のとりまとめの会。

重点的に取り組むべき重要施策①まちづくりの住民参加②地域・学校・家庭の連携③地域文化の創造と継承 それぞれに提案が盛り込まれている。い

くつか議論があったが、修正は会長に任される。

委員長: 一般の方が持っている生涯学習の概念を変えることが必要。余暇の利用というイメージを打開するべき。町田市は生涯学習の場が少ないので、図書館は生涯学習の拠点としての役割、学校教育を支援していくという役割が必要になる。

(8) 第 7 回まちだ図書館まつり 3/22～3/25

Q: パフレットの配布先は⇒市内小中学校、高校、幼稚園保育園などに配布しているが各施設にクラス数程度。

意見: 図書館のツイッターをフルに使って伝えて欲しい。拡散しやすいように発信して欲しい。

意見: 小学校の卒業式は 1～4 年生はお休みなので、そのときに受け入れてもらえるありがたい。地域の図書館と地域の学校がまつりで連携できると良いと思う。

#### 《その他》

・図書館評価を終え今後の課題など

- 1 資料費の削減がサービスに及ぼす影響
- 2 次期図書館評価における評価項目
- 3 学校支援

★次回第 16 期図書館協議会第6回定例会は4月16 日(月)午後1:00～ 町田市立中央図書館中集会所にて。傍聴自由ですが、休館日のため、傍聴希望者は、中央図書館に連絡してください。

### まちだ未来の会 第11回学習会参加報告 市民が考える「公共施設再編計画」!

#### PART III

庄司 洋子

3月 18 日(日)に町田市民フォーラムで第 11 回学習会が 22 名の参加により、開催されました。

今までの経過を聞いた後、①学校 ②図書館 ③文学館・博物館 ④福祉施設の4つのテーマ別のグループに分かれて、討論しました。

3月 20 日から市の意見募集が始まります。まちだ未来の会では、第 10 回学習会で提示した「市民版再編計画シノプシス(新版)」に今回の話し合いの内容を加えて更に吟味し、市に提出の予定です。

(会員)

### まちだ未来の会 第12回学習会 市民が考えた「公共施設再編計画」発表会!

日時: 4月 15 日(日)午後2時～4時 30 分

会場: 町田市民フォーラム 3F 和室(1)(2)

#### プログラム

提 案: 市民の発想とアイデアによる市民版「公共施設再編計画案」の発表～「やすらぎとふれあいのあるまち」を求めて～

車座(くるまざ)討論: 市民版再編計画の仕上げと市民への周知をめざして

市民版計画案をさまざまな視点から検討し、多くの市民に支持される計画に練り上げます。メンバーを入れ替えながら自由な論議を進めます。

全体討論:

参加費(カンパ): 300 円







## 例会 2/27 (火) 報告

・18:00～20:00 中央図書館・中集会所  
出席：石井・久保・鈴木(真)・手嶋  
・中嶋・野町・山口

3/1(木)17:00～  
No221 印刷・発送作業等(多田・手嶋)

### 1. 会報について

No222: 巻頭言未定⇒「さるびあ図書館の存続を求める請願」市議会報告(手嶋)、まちだ未来の会第11回学習会報告(庄司)、「こんな本見つけた!」第7回(多田)、東京都多摩地域公立図書館大会参加報告(第2分科会 野町、第3分科会 石井⇒石井、兼田)、第5回図書館協議会報告(鈴木⇒清水)、⇒追加「第10回町田市公共施設再編計画策定検討委員会を傍聴して」(鈴木)

### 2. 今年度の活動計画について

図書館見学会:「志木市立いろは遊学図書館」に決定。日程はMLにて調整する。⇒4月27日(金)に。

### 3. 「町田市5か年計画17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

#### まちだ未来の会の取り組み

##### ・学習会

第10回学習会報告(2/17)報告

市民が考える「公共施設再編計画」! PARTII  
⇒「知恵の樹」No221 参照、「すすめる会」のHP(まちだ未来の会の頁)で閲覧可能。

第11回学習会

市民が考える「公共施設再編計画」! PARTIII

日時:3月18日(日)午後2時～4時30分

場所:町田市民フォーラム・和室

#### 「すすめる会」の取り組み

##### ・請願

〈さるびあ図書館を存続させることを求める請願〉  
請願の締め切りは、3月13日(火)午後5時。署名の追加は20日(火)の委員会開催前まで可能。⇒13日(火)7,532筆提出、20日(火)最終7,730筆

##### ・講演会

三多摩図書館研究所から以下の講演会について、「すすめる会」との共催で行いたいという申し入れがあったため、実施する。⇒「知恵の樹」No222 参照。

### 4. 学校図書指導員について

その後の進捗状況 不明。

### 5. 「第7回まちだ図書館まつり」について

『すすめる会』の推薦展示書籍:①「としょかんライオン」②『本を読むひと』

広瀬恒子さん講演会 3/25 午前10:30～12:00

#### 報告

### 1. 第10回町田市公共施設再編計画策定検討委員会

前回出た素案を加筆修正して3月20日(火)から意見募集を行う。

図書館については、2018年度に全てが決定ということになっている。

### 2. 第32回団体登録利用者懇談会について

29団体31名参加(うち学校3校)

内容:団体貸出の現状報告と意見交換、質疑応答  
団体からの要望:①会議室・印刷室の利用の仕方をシンプルに②団体の活動をポスター展示で紹介を③学校支援は2週間前までの申し込みだが、少し短縮を。

### 3. 平成29年度東京都多摩地域公立図書館大会について

第4、第6分科会報告は、「知恵の樹」No221 参照。第2、第3分科会報告は、「知恵の樹」No222 掲載予定。⇒掲載。

### 4. 図友連会員学習会について

2月25日(日)午前10時～午後5時、23名参加。

図書館協議会のそれぞれの地域の現状や、図書館協議会がどうあるべきか、図書館協議会の必置の是非等について多くの議論ができた。

### 5. 団体及び個人からの報告

嘱託労:3月1日(木)スキルアップ講座「レファレンス」。講師は松山巖先生(玉川大学)

野津田・雑木林の会:3月31日(土)講演会「センスオブワンダー/レイチェルカーソンの遺言」を午後2時～、文学館大会議室で開催。講師は岸由二先生(慶応義塾大学名誉教授、NPO法人鶴見川流域ネットワーク代表理事)

図書館六分会協議会:3月22日(金)団体交渉予定。

### 6. その他

第5回図書館協議会報告⇒「知恵の樹」No222 参照。

#### 《編集後記》

市議会にて採択された請願を行政は無視することが往々にしてあるが、誠実に履行する必要がある。(T<sup>2</sup>)